

## [11] ベラルーシ

### 1. ベラルーシの概要と開発課題

1991年にソビエト社会主義連邦共和国が解体してベラルーシ共和国は独立国となり、1994年7月にアレクサンドル・ルカシェンコが初代大統領に選出された。ルカシェンコ大統領は就任以来大統領権限の強化を推進し、1996年11月には大幅な大統領の権力拡大を内容とする新しい憲法案の是非に関する項目を含む国民投票を実施し、有権者の70%近い支持を得て新憲法が発効した。ルカシェンコ大統領は、新憲法を根拠に自らの任期を2001年まで延長することを宣言するとともに、新憲法に基づいて二院制の議会を招集した。ルカシェンコ大統領が勝利した2001年の大統領選挙(大統領の得票率76%)、2003年の議会選挙に対して、欧米諸国は民主的選挙のための国際基準が満たされていないとしてベラルーシ当局の対応を非難した。また、2004年の国民投票で大統領三選規定が削除され、2006年の大統領選挙でルカシェンコ大統領は83%という高得票率で三選を果たしたが、これに対しても選挙監視を行った欧州安全保障協力機構(OSCE: Organization for Security and Co-operation in Europe)は、同選挙は民主的基準を満たしていないとした。これを受け、米国とEUはルカシェンコ大統領を含む政府高官に対して査証発給の制限と金融資産の凍結を実施しており、欧米諸国との緊張した関係が続いている。

独立前ベラルーシは、旧ソビエト社会主義連邦共和国の計画経済体制下で、旧ソビエト社会主義連邦共和国の中では比較的良好的な経済を有していた。独立後の市場経済化の進展は遅々としている。ルカシェンコ大統領は「社会指向型市場経済」と呼ばれる旧ソビエト社会主義連邦共和国型の管理経済を推進しており、経済の7~8割は国営セクターといわれている。ただし、「連合国家」の創設を目指すロシアとの特別の関係により、エネルギー資源(石油、ガス)を安価に購入できること、ロシア市場に工業製品を輸出できること等により経済指標は必ずしも悪くはない。

## ベラルーシ

表-1 主要経済指標等

| 指 標                   |  | 2006年                | 1990年     |
|-----------------------|--|----------------------|-----------|
| 人 口                   | (百万人)                                  | 9.7                  | 10.2      |
| 出生時の平均余命              | (年)                                    | 69                   | 71        |
| G N I                 | 総 額 (百万ドル)                             | 36,838.02            | 17,361.17 |
|                       | 一人あたり (ドル)                             | 3,470                | —         |
| 経済成長率                 | (%)                                    | 9.9                  | —         |
| 経常収支                  | (百万ドル)                                 | -1,511.60            | —         |
| 失 業 率                 | (%)                                    | —                    | —         |
| 対外債務残高                | (百万ドル)                                 | 6,123.61             | —         |
| 貿 易 額 <sup>(注1)</sup> | 輸 出 (百万ドル)                             | 22,137.30            | —         |
|                       | 輸 入 (百万ドル)                             | 23,723.40            | —         |
|                       | 貿易収支 (百万ドル)                            | -1,586.10            | —         |
| 政府予算規模(歳入)            | (ディナール)                                | 28,538,121.00        | —         |
| 財政収支                  | (ディナール)                                | 1,136,719.02         | —         |
| 債務返済比率 (DSR)          | (対GNI比, %)                             | 2.0                  | —         |
| 財政収支                  | (対GDP比, %)                             | 1.4                  | —         |
| 債務                    | (対GNI比, %)                             | 17.4                 | —         |
| 債務残高                  | (対輸出比, %)                              | 27.8                 | —         |
| 教育への公的支出割合            | (対GDP比, %)                             | 6.1                  | —         |
| 保健医療への公的支出割合          | (対GDP比, %)                             | —                    | —         |
| 軍事支出割合                | (対GDP比, %)                             | 1.7                  | —         |
| 援助受取総額                | (支出純額百万ドル)                             | 72.50                | —         |
| 面 積                   | (1000km <sup>2</sup> ) <sup>(注2)</sup> | 208                  |           |
| 分 類                   | D A C                                  | 低中所得国                |           |
|                       | 世界銀行等                                  | iii/低中所得国            |           |
| 貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況  |  | PRSP最終版策定済 (2004年2月) |           |
| その他の重要な開発計画等          |  | —                    |           |

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値(湖沼等を含む)を示している。

表-2 我が国との関係

| 指 標            |            | 2007年    | 1990年 |
|----------------|------------|----------|-------|
| 貿易額            | 対日輸出 (百万円) | 5,146.17 | —     |
|                | 対日輸入 (百万円) | 4,306.32 | —     |
|                | 対日収支 (百万円) | 839.85   | —     |
| 我が国による直接投資     | (百万ドル)     | —        | —     |
| 進出日本企業数        |            | —        | —     |
| ベラルーシに在留する日本人数 | (人)        | 22       | —     |
| 日本に在留するベラルーシ人数 | (人)        | —        | —     |

表-3 主要開発指数

| 開 発 指 標                  |                                    | 最新年                 | 1990年 |
|--------------------------|------------------------------------|---------------------|-------|
| 極度の貧困の削減と飢饉の撲滅           | 所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)                | —                   |       |
|                          | 下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)              | 8.5(2002年)          |       |
|                          | 5歳未満児栄養失調割合 (%)                    | —                   |       |
| 初等教育の完全普及の達成             | 成人(15歳以上)識字率 (%)                   | 99.6(2005年)         | —     |
|                          | 初等教育就学率 (%)                        | 89(2005年)           | —     |
| ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上     | 女子生徒の男子生徒に対する比率(初等教育)              | 0.97(2005年)         |       |
|                          | 女性識字率の男性に対する比率(15~24歳) (%)         | 99.8(2005年)         |       |
| 乳幼児死亡率の削減                | 乳児死亡率 (出生1000件あたり)                 | 10(2005年)           | —     |
|                          | 5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)              | 12(2005年)           | —     |
| 妊産婦の健康の改善                | 妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)                 | 18(2000年)           |       |
| HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 | 成人(15~49歳)のエイズ感染率 (%)              | 0.3[0.2-0.8](2005年) |       |
|                          | 結核患者数 (10万人あたり)                    | 70(2005年)           |       |
|                          | マラリア患者数 (10万人あたり)                  | —                   |       |
| 環境の持続可能性の確保              | 改善された水源を継続して利用できる人口 (%)            | 100(2004年)          | —     |
|                          | 改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)          | 84(2004年)           | —     |
| 開発のためのグローバルパートナーシップの推進   | 債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%) | 3.7(2005年)          | —     |
| 人間開発指数 (HDI)             |                                    | 64(2005年)           | —     |

注) HDR2007 (UNDP) には、当該データが記載されていない。

## 2. ベラルーシに対するODAの考え方

原則として、我が国のODA供与対象とはしていないが、市民等のニーズを踏まえ、市民レベルに直接的かつ十分裨益する形の支援を実施している。

## 3. ベラルーシに対する2007年度ODA実績

### (1) 総論

2007年度のベラルーシに対する無償資金協力は0.28億円(贈与契約ベース)、技術協力は0億円(JICA経費実績ベース)であった。2007年度までの援助実績は、無償資金協力0.76億円(以上、贈与契約ベース)、技術協力0.36億円(JICA経費実績ベース)である。

### (2) 無償資金協力

草の根・人間の安全保障無償資金協力として病院の医療機材の改善を行った。

## ベラルーシ

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）  
（単位：億円）

| 年度    | 円借款    | 無償資金協力 | 技術協力 |
|-------|--------|--------|------|
| 2003年 | —      | —      | —    |
| 2004年 | —      | 0.17   | —    |
| 2005年 | —      | —      | 0.15 |
| 2006年 | —      | 0.31   | 0.21 |
| 2007年 | —      | 0.28   | —    |
| 累計    | 110.40 | 0.76   | 0.36 |

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。  
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。  
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。  
 4. 2003～2006年度の技術協力の実績は、日本全体の技術協力の実績。技術協力の累計は2005年度以降のもの。2003～2006年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2007年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

表-5 我が国の対ベラルーシ経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

| 暦年    | 政府貸付等 | 無償資金協力 | 技術協力 | 合計   |
|-------|-------|--------|------|------|
| 2003年 | —     | —      | —    | —    |
| 2004年 | —     | —      | —    | —    |
| 2005年 | —     | 0.16   | 0.25 | 0.41 |
| 2006年 | —     | —      | 0.16 | 0.16 |
| 2007年 | —     | 0.27   | 0.11 | 0.37 |
| 累計    | —     | 0.43   | 0.52 | 0.94 |

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、ベラルーシ側の返済金額を差し引いた金額)。  
 2. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。  
 3. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

表-6 諸外国の対ベラルーシ経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

| 暦年    | 1位        | 2位          | 3位        | 4位       | 5位          | うち日本 | 合計    |
|-------|-----------|-------------|-----------|----------|-------------|------|-------|
| 2002年 | —         | —           | —         | —        | —           | —    | —     |
| 2003年 | —         | —           | —         | —        | —           | —    | —     |
| 2004年 | —         | —           | —         | —        | —           | —    | —     |
| 2005年 | ドイツ 13.92 | スウェーデン 5.67 | フランス 3.76 | スイス 2.75 | オーストリア 1.89 | 0.41 | 33.75 |
| 2006年 | ドイツ 16.01 | スウェーデン 7.82 | フランス 5.09 | 米国 4.36  | スイス 2.75    | 0.16 | 38.15 |

出典) OECD/DAC

表-7 国際機関の対ベラルーシ経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

| 暦年    | 1位        | 2位          | 3位         | 4位        | 5位         | その他  | 合計    |
|-------|-----------|-------------|------------|-----------|------------|------|-------|
| 2002年 | —         | —           | —          | —         | —          | —    | —     |
| 2003年 | —         | —           | —          | —         | —          | —    | —     |
| 2004年 | —         | —           | —          | —         | —          | —    | —     |
| 2005年 | CEC 6.39  | UNICEF 0.79 | UNDP 0.59  | UNTA 0.43 | UNHCR 0.40 | 0.69 | 9.29  |
| 2006年 | CEC 15.47 | GFATM 2.82  | UNHCR 1.17 | UNTA 0.95 | UNDP 0.83  | 1.59 | 22.83 |

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-8 我が国の年度別・形態別実績詳細（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）  
（単位：億円）

| 年度                  | 円 借 款 | 無 償 資 金 協 力                       | 技 術 協 力                                      |
|---------------------|-------|-----------------------------------|--|
| 2004年               | なし    | 0.17億円<br>草の根・人間の安全保障無償（2件）       | なし   |
| 2005年               | なし    | なし                                | 0.15億円<br>研修員受入 10人<br>留学生受入 17人             |
| 2006年               | なし    | 0.31億円<br>草の根・人間の安全保障無償（4件）       | 0.21億円<br>研修員受入 7人<br>専門家派遣 4人<br>留学生受入 22人  |
| 2007年               | なし    | 0.28億円<br>草の根・人間の安全保障無償（3件）(0.28) | なし   |
| 2007年<br>度まで<br>の累計 | なし    | 0.76億円                            | 0.36億円<br>研修員受入 17人<br>専門家派遣 4人<br>留学生受入 39人 |

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。  
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。  
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。  
4. 2005～2007年度の技術協力の実績は、日本全体の技術協力の実績。2007年度までの累計は2005年度以降のもの。2003～2006年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2007年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。  
5. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。  
6. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

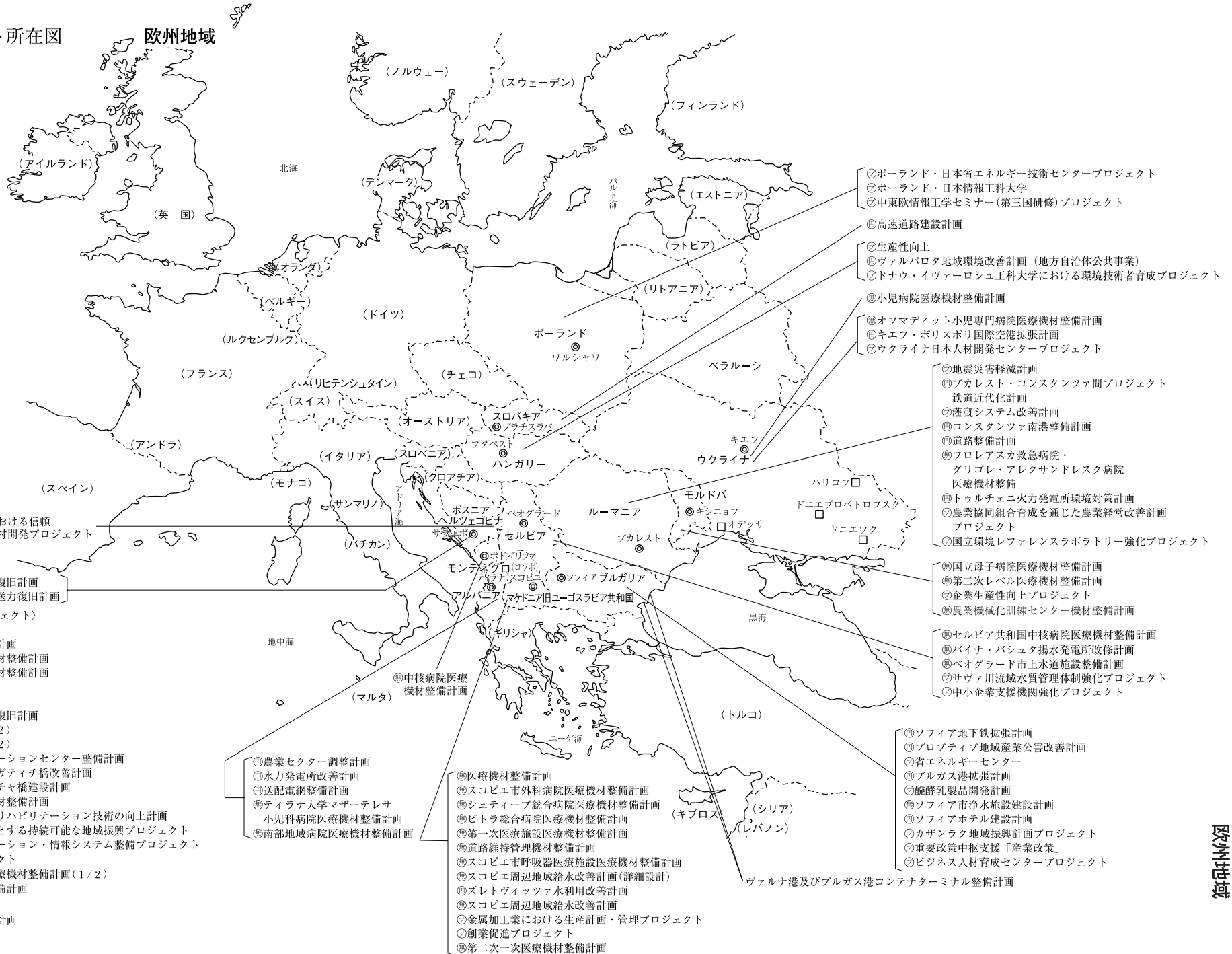
表-9 2007年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

| 案 件 名   |
|---|
| コルマ地区病院医療機材改善計画<br>ナロヴリャ地区病院医療機材改善計画<br>ドブルシュ地区病院医療機材改善計画 |

図-1 当該国のプロジェクト所在図は1161頁に記載。

プロジェクト所在図

欧州地域



- ⑦スレブニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト
- ⑧サラエボ市公共輸送力復旧計画
- ⑨バニャ・ルカ市公共輸送力復旧計画
- 〈ボスニア全国対象プロジェクト〉
- ⑩主要送電線復旧計画
- ⑪主要病院医療機材整備計画
- ⑫第一次医療施設医療機材整備計画
- ⑬第二次医療施設医療機材整備計画
- ⑭道路建設機材整備計画
- ⑮緊急電力整備計画
- ⑯モスタル市公共輸送力復旧計画
- ⑰初等学校建設計画(1/2)
- ⑱初等学校建設計画(2/2)
- ⑲地域密着型リハビリテーションセンター整備計画
- ⑳オサニツァ橋及びボガイチ橋改善計画
- ㉑ドボイ橋及びモドリツァ橋建設計画
- ㉒第三次医療施設医療機材整備計画
- ㉓地雷被災者等に対するリハビリテーション技術の向上計画
- ㉔エコツーリズムを中心とする持続可能な地域振興プロジェクト
- ㉕地域密着型リハビリテーション・情報システム整備プロジェクト
- ㉖中小企業振興プロジェクト
- ㉗第三次医療施設医療機材整備計画(1/2)
- ㉘道路維持管理用機材整備計画
- ㉙地雷被災者支援(2)
- ㉚地雷除去活動機材整備計画

- ⑩農業セクター調整計画
- ⑪水力発電所改善計画
- ⑫送配電網整備計画
- ⑬ティラナ大学マザーテラ小児科病院医療機材整備計画
- ⑭南部地域病院医療機材整備計画

- ⑮医療機材整備計画
- ⑯スコピエ市外科病院医療機材整備計画
- ⑰シュティープ総合病院医療機材整備計画
- ⑱ビトラ総合病院医療機材整備計画
- ㉑第一次医療施設医療機材整備計画
- ㉒道路維持管理機材整備計画
- ㉓スコピエ市呼吸器医療施設医療機材整備計画
- ㉔スコピエ周辺地域給水改善計画(詳細設計)
- ㉕ズレトヴィツァ水利用改善計画
- ㉖スコピエ周辺地域給水改善計画
- ㉗金属加工業における生産計画・管理プロジェクト
- ㉘創業促進プロジェクト
- ㉙第二次医療機材整備計画

- ①ポーランド・日本省エネルギー技術センタープロジェクト
- ②ポーランド・日本情報工科大学
- ③中東欧情報工学セミナー(第三国研修)プロジェクト
- ④高速道路建設計画
- ⑤生産性向上
- ⑥ヴァルパロタ地域環境改善計画(地方自治体公共事業)
- ⑦ドナウ・イヴァーロシエ工科大学における環境技術者育成プロジェクト
- ⑧小児病院医療機材整備計画
- ⑨オフマデイト小児専門病院医療機材整備計画
- ⑩キエフ・ボリスポリ国際空港拡張計画
- ⑪ウクライナ日本人材開発センタープロジェクト
- ⑫地震災害軽減計画
- ⑬ブカレスト・コンスタンツァ間プロジェクト
- ⑭鉄道近代化計画
- ⑮灌漑システム改善計画
- ⑯コンスタンツァ南港整備計画
- ⑰道路整備計画
- ⑱フロレスカ救急病院・グリゴレ・アレクサンドレスク病院医療機材整備
- ⑲トゥルチェニ火力発電所環境対策計画
- ㉑農業協同組合育成を通じた農業経営改善計画プロジェクト
- ㉒国立環境レファレンスラボラトリー強化プロジェクト
- ㉓国立母子病院医療機材整備計画
- ㉔第二次レベル医療機材整備計画
- ㉕企業生産性向上プロジェクト
- ㉖農業機械化訓練センター機材整備計画
- ㉗セルビア共和国中核病院医療機材整備計画
- ㉘バイナ・バシユタ揚水発電所改修計画
- ㉙ベオグラード市上水道施設整備計画
- ㉚サヴァ川流域水質管理体制強化プロジェクト
- ㉛中小企業支援機関強化プロジェクト
- ㉜ソフィア地下鉄拡張計画
- ㉝プロプティ地域産業公害改善計画
- ㉞省エネルギーセンター
- ㉟ブルガス港拡張計画
- ㊱醃酵乳製品開発計画
- ㊲ソフィア市浄水施設建設計画
- ㊳ソフィアホテル建設計画
- ㊴カザンラク地域振興計画プロジェクト
- ㊵重要政策中枢支援「産業政策」
- ㊶ビジネス人材育成センタープロジェクト
- ㊷ヴァルナ港及びブルガス港コンテナターミナル整備計画